

なわて歴史さんぽ

ふだん何気なく歩く四條畷のまちのなかには、歴史を伝える場所がたくさんあります。文化財課職員が、まちに溶け込む歴史スポットや見どころを紹介します。

馬飼いの歴史を発見

なわて水みらいセンター

▲ 砂四丁目

施設の建設に伴う発掘調査で、古墳時代に埋葬された馬の全身骨格や馬具が見つかりました(部屋北遺跡)。古代、この地には馬を育てる人々が暮らしていたと考えられています。現在は、埋葬馬出土土坑の実物大レプリカを見ることができます。



このあたりで
発掘されました！

発掘場所は現在、芝生広場に

全国でも珍しい大発見!?

馬の全身骨格が見つかる例は全国でも珍しく、貴重な発見の一つです。四條畷の歴史は古く、古墳時代から栄えていたことが分かります。



文化財課
田中さん

古墳の上に建つ神社
忍陵神社
▲ 岡山二丁目



約1,700年前に築かれた古墳(忍岡古墳)の後円部の墳丘上に建つ神社。明治44年に近隣の馬守神社と砂西方にあった大將軍社と合祀されました。古代から近代までの歴史が重なる、四條畷ならではの歴史スポットです。

台風が発見のきっかけに!?

昭和9(1934)年の室戸台風で社殿が倒壊したことをきっかけに石室が見つかり、忍陵神社が古墳の上に建っていたことが分かりました。思わぬ出来事が歴史を解き明かしました。

文化財課
松岡さん



3



照涌大井戸には、旅の途中の弘法大師に娘が水を差し上げたと、お礼に「ここを掘ればきれいな水が湧く」と教えられた場所が照涌大井戸となったという伝承が残っています。暮らしを支えてきた井戸として、今も地域の人たちに大切にされています。

地名の由来にも!

「照涌」は「照れば照るほどよく湧く井戸」が由来と伝えられています。地名「照涌」の名前も、この井戸からとられました。



戦国時代の交通の要衝を守った城

田原城跡 ▲ 大字上田原

田原城跡は、自然の地形を生かして築かれた山城です。河内国と大和国を結ぶ交通の要衝にあり、戦国時代には飯盛城の東方を守る支城として重要な役割を担いました。現在も本郭や堀切などの遺構が残っています。

城主が見た景色が広がる!

城跡の高台からは田原のまちを一望できます。戦国時代の城主と同じ景色を楽しめます。

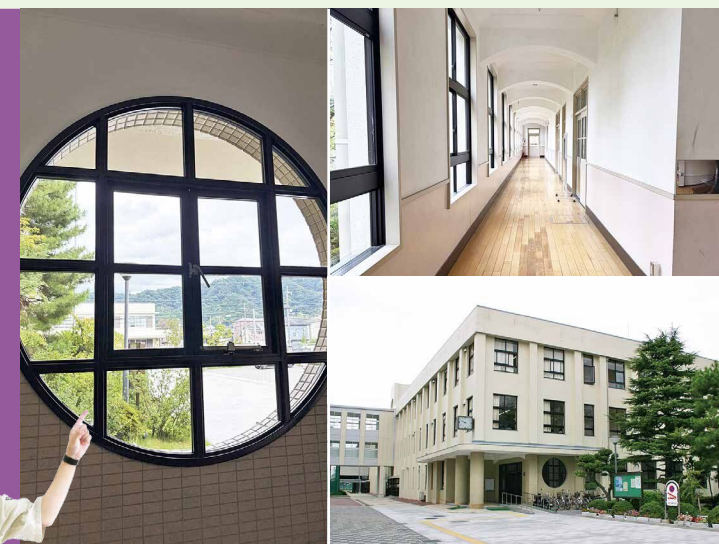


昭和初期の姿を伝える校舎 大阪府立四條畷高等学校本館

四條畷高校本館は、昭和11年に完成した国の登録有形文化財です。玄関の大きな丸窓や円柱など、昭和初期のモダンイズム建築の特徴を今に伝えています。現在も生徒たちが学ぶ校舎として使われ、校門の外からもその美しい外観を見ることができます。

※校地内は関係者以外立ち入り禁止です

わたしも学んだ校舎で、正面玄関の丸窓は本館を象徴する意匠です。校門の外からも見えるので、ぜひ注目してみてください。



田中家住宅（逢阪）

逢阪地区の歴史を今に伝える田中家住宅。歴史的な価値が認められ、令和8年2月10日、主屋を含む5棟が国の登録有形文化財に登録されました。



主屋 明治19年建築

石垣の上に南向きに建ち、広い土間と座敷を備えた大規模な造りです。風格ある屋敷構えが、農村集落の歴史を今に伝えています。

離れ



大正6年建築
きりつま切妻屋根の棧瓦葺き平屋。白い漆喰の外壁と腰部分の縦板張りが、歴史を感じさせる落ち着いた佇まいを生み出しています。

乾蔵



大正6年建築
主屋とは畳敷きの部屋でつながる二階建ての土蔵。高く張られた縦羽目板が重厚な印象を与え、離れとともに屋敷北側の景観をつくっています。

中門



明治40年建築
主屋南側の庭の入口に建つ門。庭の景観を引き立て、鯉などを飾った銅製の雨樋が印象的です。

異蔵



明治40年建築
敷地の南側に建つ米蔵。白い漆喰の外壁と石垣が調和し、田中家の風格ある屋敷構えを今に伝えています。

文化財として利活用をすすめ、次代へつなごう

先祖代々守ってきたわが家が登録有形文化財となり、大変感慨深い思いです。専門家の先生方の評価を受けるなかで、この家の価値を改めて知るとともに、この住宅を次代へどう繋いでいくかという思いも強くなりました。今後は、文化や芸術、農業などさまざまな分野での利活用を模索し、この住宅を起点に新たな交流や地域の発展につなげていければと考えています。



田中さんご夫婦

知る・触れる・守る

なわての歴史

四條畷の歴史をもっと知るなら歴史民俗資料館へ。市内の遺跡から出土した資料や昔の暮らしの道具を、イラストを交えて分かりやすく展示しています。

歴史に触れる

歴史民俗資料館



▲ 塚脇町3番7号 ☎ 9時30分～17時 ☎ 072(878)4558
⑧ 月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、
展示替え期間(12月14日(月)～令和9年1月4日(月))



資料館内の民俗展示室は明治40年に建てられた土蔵。国の登録有形文化財に登録されています。

第41回特別展 馬と人のあゆみ

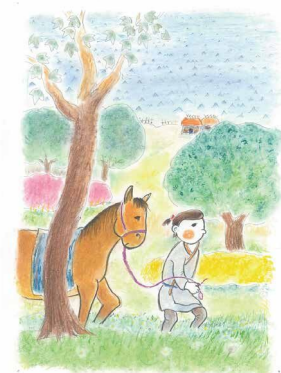
一人は馬とどう向き合ってきたか

10月10日(土)～12月13日(日)公開中！

日常生活の中で見かけることの少ない馬ですが、ほんの70年ほど前までは重要な労働力として人々の暮らしを支えていました。日本における「馬と人」の歴史は5世紀までさかのぼり、馬が大陸から船で運ばれてきたことから始まります。やがて大阪の河内地域、そして四條畷でも飼育が始まり、次第に人々の生活に欠かせない存在となっていきました。本展では、遺跡から出土したさまざまな痕跡をたどりながら、人と馬がともに歩んできた歴史を紹介します。



詳しくはこちら



歴史を守る

埋蔵文化財包蔵地内で工事を行うときは事前の届け出が必要です

市内には現在51か所の「埋蔵文化財包蔵地(遺跡などが埋まっている土地)」が確認されています。これらの場所には、本市の歴史をひもとく貴重な文化財が地中に眠っている可能性があります。そのため、対象区域内で家屋の新築や土木工事などを行う場合は、事前に届け出ることが文化財保護法(第93条第1項)で義務付けられています。

届出期限 工事着手の60日前まで ※包蔵地の範囲は変更・追加される場合があります。
詳しい場所や届出の手続きなどは問い合わせを。

問合せ 文化財課

地図情報システム



詳しくはこちら

